



# 「呉山淳一君が念願の初優勝！ 涙が出るほどうれしいです」

ハードなコース設定の日高CCで稀に見る大激戦を展開



## 難コースでの大混戦を 制するのは誰か？

「稀に見る大混戦になりそうだ」と、関東グランドシニアゴルフ選手権の第1ラウンドを終了した時点で、誰もがそう予想した。「現時点のトップの75ストロークから、6打差の81ストロークでも優勝の可能性がある」と。

通常なら決勝競技の第2ラウンドは、アウトスタートの最終2組ほどを、KGA広報委員は同行取材するのだが……。なんと最終組の8組前から、32選手が6打差にひしめく。「日本グランドシニアゴルフ選手権の出場資格

選手は36名、その全員を

フォローしなくては！」

混戦を予想したのは理由がある。決勝競技の会場となった日高カントリークラブの難度が、極めて高かったのだ。

「快晴に恵まれて絶好の

コースコンディションです。昨日の第1ラウンドのグリーンは、速さ11・5ではほぼ限界に近いでしょう。今日は10・5の設定ですが、引き続い

ての好天で乾燥すれば、優勝スコアは2桁オーバーも考えられます」（酒巻KGA競技委員長）

スタート直後から、予想どおりの大激戦。「2番の下りパットが、グリーン外に」などの声がかれたが、アウトを終了しても上位選手は崩れない。

最終組を同行

取材すると、まさに4人のデッドヒート。昨年の同競技で永井明は1打差の惜敗、神村種臣は3打差で5位タ

## 最年長出場

富山信治君は80歳の最年長出場。決勝競技の2日間は真夏日となつて、地表温度は30度を越えた。棄権や欠場が相次ぐなかで、楽々と完走。「さすがに疲れましたが、楽しかったです」（富山君）



## 大混戦

写真上から。3位の神村種臣君、4位の岩崎征夫君、5位タイの稲田一男君、秋田実君、小川透君。昨年の関東ミッドシニアで優勝した小川君は12月の誕生日で70歳。「この10日前にスコア69で、エージシュートを達成しました」

## プレーオフ

呉山淳一君（上）と永井明君のプレーオフは、気迫で圧倒した呉山君に軍配が上がった。「阪田哲男さん（所属の袖ヶ浦CCチームメイト）に、パットを教えてもらったのが役立ちました。涙が出るほどうれしいですよ」（呉山君）

